

はじめに

古文書学とは、文書の歴史「文書史」であると言われる。それを可視化するためには、実際に文書を並べて比較することが必要であり、そのことは多くの文書を所蔵する機関の一つの使命とも言えよう。有数のコレクションを有する国立歴史民俗博物館では、古文書をテーマにした、あるいは主要な資料とした展示を随時開催しており、特に、二〇一八年秋に開催した企画展示「日本の中世文書——機能と形と国際比較」では、共同研究の成果を踏まえて、国際的な視野の下に、中世を中心とする日本の古文書を体系的に展示することを試みた。実物を展示することが難しい海外の文書などについては適宜複製も使用して、総数約二六〇点、古代から現代までを扱い、また共通の背景を持つ東アジア各国の文書との比較によって、日本の文書の特徴を示そうとしたものである。

本書は、この展示とその関連事業として開催した二つのシンポジウム（歴博フォーラム「日本の中世文書」、歴博国際シンポジウム「東アジアの古文書と日本の古文書」）およびその母体となった共同研究を元に、参加者が執筆した論集である。

古文書の展示で、家分けの文書や特定のコレクションを対象とする場合は、それらの文書群が形成さ

れた事情、そこに内在する論理に沿うことが避けられない。特定の文書群を離れて、客観的な立場で総合的な展示に仕立てるためには、そのための概念と論理が必要になる。これについて今回は、『官』の文書―すなわち官僚機構によって出された文書と、個人の文書である「書状」という二つに大きく分類して理解することを試みた。

従来の古文書学では、たとえば佐藤進一『古文書学入門』のように、公式様文書↓公家様文書↓武家様文書という区分で説明することが多かったが、実際は公式様の文書が中世で主流となる書状様式の文書に変化するわけではないので、古代からの変遷がうまく説明できず、また日本固有の事情に基づくこのような区分は国際的な比較にも適さなかった。

一般的に言えば、文書には公文書と私文書の別があり、その観点から見れば、日本の前近代文書においては、本来の公文書の様式（「官」の文書）が次第に形骸化し、古代から存在した書状系統の様式が公文書の分野でも広く用いられるようになっていった、という形での整理ができると思われる。そして、それなら国際的にも通用する文書史として描くことができるのではないか。そのような見通しの上に展示を行なった次第であり、本書においても、どのように受け止め具体化するかはともかく、そのような問題意識は共有されている。

本書の構成としては、全体を日本の古文書の問題と、アジアにおける古文書の問題の二部に分けた。各論考は、それぞれのテーマを扱った独立した内容を持つが、全体として日本の文書史を東アジアの文書史の一部として俯瞰できるようにすることを意図している。口絵は、企画展示の際に好評だった文書様

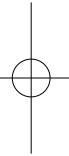
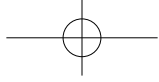
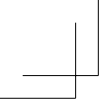
式の解説パネルを元に作成した。全体の一部にとどまるが、様式を読み解く例として御覧いただきたい。

企画展示の際には、シンポジウムメンバーと共に実際に実物の文書を見ながら意見を交換することができ、大変有意義だった。古文書の国際的な比較研究は、このような実物の検討を共に行なう形でこそ大きく進展することを実感した次第であり、シンポジウムにおいても、博物館発の研究であることを評価する声があった。本書において、展示やシンポジウムにおける熱気が読者に伝わり、またそれが今後の日本と東アジアにおける古文書研究に寄与することになれば幸いである。

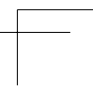
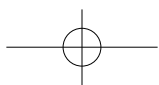
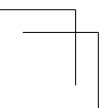
二〇二〇年正月 日

編者を代表して

小島道裕



SAMPLE



目次

口絵 図解でわかる文書様式

はじめに……………小島道裕(1)

第1部 日本の文書様式とその変遷

1 古代の文書と中世への展開

古代日本における「文書」の誕生……………小倉慈司 3

「詔勅」における口頭伝達の役割……………仁藤敦史 19

中世日本における書状の広がり——古代書状論・「公文書化」論を中心にして……………佐藤雄基 36

2 中世文書の諸相

将軍の文書と武士団の文書……………田中大喜64

寺院文書の特徴——衆議文書の形成とその背景……………横内裕人 82

3 戦国大名の文書と近世への展望

戦国大名の文書と天下人の文書……………金子 拓 105

戦国大名の印判状について——北条氏の「虎の印判」は東アジア標準か……………小島道裕 121

第2部 東アジアの古文書と日本の古文書

1 韓国の古文書をめぐって

朝鮮王朝の国王文書……………川西裕也 147

日本と韓国の署名・花押比較……………朴 竣鎬 162
(稲田奈津子訳)

朝鮮時代における私人間の契約文書——様式と特徴を中心に……………文 叔子 181
(稲田奈津子訳)

東アジア古文書の中の画指……………三上喜孝 205

2 中国の古文書をめぐって

中国古文書学概論——公文書の様式研究を例に……………黄 正建 221
(江川式部訳)

明清時代の「信牌」……………阿 風 258
(黄 素英訳)

日本古代における中国文書様式の受容と変容……………丸山裕美子 281

3 東アジアの文書と外交の文書

中世日本の往復外交文書——十五〜十六世紀の現存例を中心として……………荒木和憲 302

安南日越外交文書の様式と伝来……………藤田励夫 328

イルハン朝(モンゴル支配期イラン)の公文書……………四日市康博 356

総括 文書実践としての中世文書史……………高橋一樹 382

あとがき……………小島道裕 394

執筆者・翻訳者一覧……………399